

第 38 回有明海・八代海等総合調査評価委員会における委員意見及び対応（案）

No.	第 38 回 評価委資料	委員意見	対応（案）
1	4-2 (P.16)	（滝川委員） A 2 海域と A 3 海域の底質のまとめ部分で海域内の平均値を議論しており、実際には地形・水深・流れの違いにより海域内の地点によって傾向が異なると考えられる。個別対策を見据えると、地点別に整理する必要があるのではないか。	A 2 海域や A 3 海域のまとめにおいては、「(底質の泥化について、) 場所によっては増加傾向を示す地点が見られた。」と、ある時期ある地点のデータについても留意すべきものについては、記載しているところ。
2	4-2 (P.27)	（古賀委員） 以前、A 2 海域のタイラギの立ち枯れへい死についてもう少し詳細に記載すべきと指摘した。本資料の内容では、評価委員会においてどのような議論がなされたかが分からない。	ご指摘を踏まえ、内容を追記した。
3	4-2 (P.27)	（中田（薫）委員） タイラギの密度と底質環境の関係（図 25）について、硫化物等の各項目の閾値等に関する考察ができないか。	閾値等について具体的に検討できるデータがあればご提供いただきたい。
4	4-3 (P.21)	（山口（啓）委員） 埋没測定板上の堆積物の解析について、A 3 海域において沖神瀬西の地点が浸食されているように見える。この結果をもって一様に増加・減少している傾向はみられないと考察するのは無理があるのではないか。	ご指摘を踏まえ、内容を修正した。

No.	第 38 回 評価委資料	委員意見	対応（案）
5	4-4 (P.15)	<p>（清野委員） A 4 海域で九州北部豪雨によるアサリの大量へい死についての記載があるが、その後の調査結果はあるのか。短期的にみると、確かに出水の影響によるへい死はよくみられることであるが、一方で長期的なスパンでみると、大出水という自然の攪乱は河口干潟における 1 つのサイクルでもあるという見方もできる。60 年に 1 度という大出水の時にだけ大粒径の土砂が供給されることもあり、今後の調査結果をフォローしていただきたい。</p>	<p>関係機関による調査結果は確認できなかった。何か知見をお持ちであれば提供いただきたい。 今期はアサリの着底が好調であるとも聞いており、この点についても今後評価委員会においてデータを確認する。</p>
6	4-6 (P.4)	<p>（山田委員） ベントスの経年変化について、季節変動に関する考察を入れてほしい。例えば、A 6 で毎年夏季に減少している傾向がみられる。 また、過去に年 4 回調査が実施されていたが、近年では年 2 回（夏季・冬季）となっている。海域によっては秋季にするものもあると考えられるため、調査内容を再検討される際は調査月を適切に設定すべき。</p>	<p>A 6 のベントスが毎年夏季に減少しているかデータを確認することとしたい。 また、調査時期に関するご指摘は、今後の調査実施の際の参考とする。</p>
7	4-全体	<p>（清野委員） 底質と生物の関係について、マイクロハビタット（微地形）の観点から考察が欠けている。物理環境と生物生息環境との関係について、もう少し分かり易く考察してほしい。</p>	<p>評価に資する調査結果等について情報提供いただきたい。</p>

No.	第 38 回 評価委資料	委員意見	対応（案）
8	5-2 (P.3)	（清野委員） Y 2 海域について、ベントスのデータ解析を Ykm-3 で行われているが、環境省の定点はやや沖側に位置しており、社会的問題となっている河口域のアサリの生息場所にずれが生じている。	水質との関係を見ることができるよう、公共用水域水質調査地点としている。 河口域のデータについて、評価に資する調査結果等があれば提供いただきたい。
9	5-2, 5-3	（速水委員） Y 2、Y 3 の連関図について、底層 D O の低下と魚貝類には関連があると考えられるため、可能性のあるものは残すという考え方からすると線を引くべきではないか。	八代海における底層 D O の長期変化に係る知見がなく、観測データが存在する以降の年に底層 D O の低下により魚介類等生息数が減少した旨の知見はないため、原案のとおりとしたい。
10	5-6	（岩淵委員） ノリ養殖について、最近生産枚数が減少しているのは、漁業者の減少、柵数の減少が原因なのか、それとも色落ちが原因なのか不明である。漁業者・柵数の経年変化についても掲載すべき。	ご指摘を踏まえ、内容を追記した。
11	5-6 (P.14)	（内藤委員） ノリの色落ちに関する考察がされていない。	今後記載する予定。
12	5-全体	（中田（薫）委員） 八代海全体を見て、2008 年、2009 年ごろから C O D が倍化している傾向が見られる。栄養塩や魚類養殖量に大きな変化は見られないため、たとえば物理環境や水の循環等も含めて検討する必要があるのではないか。	ご指摘の視点も含め、検討していきたい。随時御意見をいただきたい。

No.	第 38 回 評価委資料	委員意見	対応（案）
13	6-1	<p>（清野委員） 記載されているのは土砂流入の直前の河道内のものであり、実際には海域においては、港湾、漁港などで航路浚渫等がなされている。その量は場所によっては河川供給量の 2 桁くらい大きいともいわれている。前回の検討では入っていたはずなので、人為的な浚渫量についても確認されたい。</p>	<p>評価に資する調査結果等があれば提供いただきたい。</p>
14	6-2	<p>（速水委員） 有明海では公共用水域水質調査に加えて浅海定線調査データが長期間分あるので記載すべきではないか。公共用水域では、調査時が大潮か小潮なのかを確認した方がよい。</p>	<p>水質について、浅海定線調査結果の整理が可能かどうか検討する。 公共用水域の調査は、原則として大潮期に測定が行われているものと認識している。</p>
15	6-1 (P.9)	<p>（速水委員） 筑後川の平均河床縦断図に対するコメントについて、もう少し詳しく記載できないか。例えば、 年～ 年までは変化して、 年以降変わっていないなど。</p>	<p>記載を検討する。</p>
16	6-2	<p>（山田委員） 水質の変化傾向の解析項目にクロロフィル a も加えていただきたい。透明度や C O D にも関連する項目である。</p>	<p>クロロフィル a の変化傾向解析が実施可能かどうか検討する。</p>

No.	第 38 回 評価委資料	委員意見	対応（案）
17	3	<p>（山口(啓)委員） 資料 3 の海域特性のまとめ表は委員会報告のどの章に位置づけられるのか。このまとめ表と資料 4 及び資料 5 の原因・要因考察では、表現が必ずしも一致していないように見える部分が散見される。</p>	<p>資料 3 の表は各海域の「現況」について論文等からわかることを整理したものである。一方、資料 4 及び資料 5 は「1970 年頃から現在にかけての変化」について問題点と原因・要因を考察したものである。資料 3 は 4 章 2. に、資料 4 と 5 は 4 章 3. に入れるべき内容と考えている。</p>
18	全般	<p>（山口(啓)委員） 海域区分毎の検討をしているが、各海域間の相互作用についても、わかるところだけでも記載して欲しい。</p>	<p>有明海全体、八代海全体で整理している事項もある。また、今後検討を進める中で適宜ご意見をいただきたい。</p>